

吾輩は保護犬である

ナレーション("吾輩"の声) 火野 正平

稲垣 将治 奥田 愛美 嘉陽田 亜耶美 北原 洋子 ポチパパ(北村紋義)

小島 香代子 古知屋 友里 柴内 裕子 角 新一 高木 里絵湖

一木 麻実 宮城 直子 山田 裕嗣 その他保護犬猫に関わる大勢の方々

監督・撮影 巽 祐一郎 製作 保護わん®



吾輩は保護犬である



映画 公式サイト

笑いあり涙あり 学びあり 感動あり！

全ての犬好きに観てもらいたい 珠玉のエンターテインメント！！

映画「吾輩は保護犬である」は 俳優・火野正平が演じる主人公"吾輩"の声を水先案内犬として 保護犬と人間とのポジティブな関係を描き出し その強い絆から生まれる感動のストーリーを 保護犬と人間の共生の幸せな未来に向けたメッセージを送ります

映画では、保護犬の問題の本質に正面から取り組んでいる方々の熱意や、動物愛護に関わる活動や施設の取り組み、また保護犬の良さを伝えることのできるエピソードをドキュメンタリー映像でつむぎます



登場するのは、愛護活動家や団体、保護犬に関わる施設、少年院、獣医師、個人ボランティア等々---そして保護犬です

保護犬に関わる人々の言葉から、犬と人の絆と愛を伝え、動物を大切に扱える心を感じ、知ってもらいたいと思います。保護犬の問題を解決したいという思いは、ただ一つ同じですから、そこに向かっていくエネルギーによってストーリーが熱く繋がります

人間が招いている問題は、やはり生身の人間が解決していくしかありません。観ている人は、それが他人事ではなく、人間である自分の身の回りから意識や価値観を変える必要があることに、気付けるようにします

これまでの保護犬の映画や映像といえば、酷い現場の状況を映し出したり、悲壮感に満ちた表現で同情を買おうような救いの無い表現がほとんどでしたしかし、それでは一般の観客には目を背けて、観てもらえません



この映画では、難しかったり辛かったりのお話ではなく、問題を前向きな課題として捉え、観た人が幸せで温かい気持ちになれる映画ですこの映画は、保護犬の問題に意識の高い方たちに観てもらうだけではなく、保護犬の存在は知っていてもよく考えてみたことの無い方や、ごく一般の方々に観てもらうために制作されました

彩の国さいたま芸術劇場
映像ホール

7月6日(日)

開場 : 14:00
(受付: 13:30~)

映画上映: 14:20~16:10

トークショー: 16:10~16:30
上映後に、巽 祐一郎監督によるトークショーあり
撮影裏話などを予定しています

入場料 大人: 1,200円
中高生: 1,000円
小学生以下: 600円

チケットのご購入は
こちらからお願い致します→



主催 (株)未来教育道 みずび英語塾



西山ゆう子 米国獣医師、シェルターメディスン、獣医法医学

見終わった後、とてもポジティブな気持ちになり心がぽかぽかと温くなりました。保護犬がテーマのものは、捨てた人間を批難し、怒りと憎悪で暗い気持ちになるものが多いです。そんな中、保護犬を救うことで救われている人間の心を浮き彫りにしたこの映画は、ある意味ショックでした。誰1人も責めずに動物問題に向き合ったものが、過去にあっただろうか。



大塚敦子 ジャーナリスト(岩波新書『動物がくれる力 教育、福祉、そして人生』著者)

これは「保護犬だからこそ」のよさが存分に伝わってくる映画だ。中でも心に残るのは、沖縄女子学園のエピソード。少年院にいる少女が保護犬のりいに向き合い、辛抱強く互いの絆を育てるうちに自分を見つめ直していく姿には心を揺さぶられる。保護犬だからこそ、彼女の中の一番優しい部分を引き出せたのだと感じる。ぜひ多くの人に見てほしい。